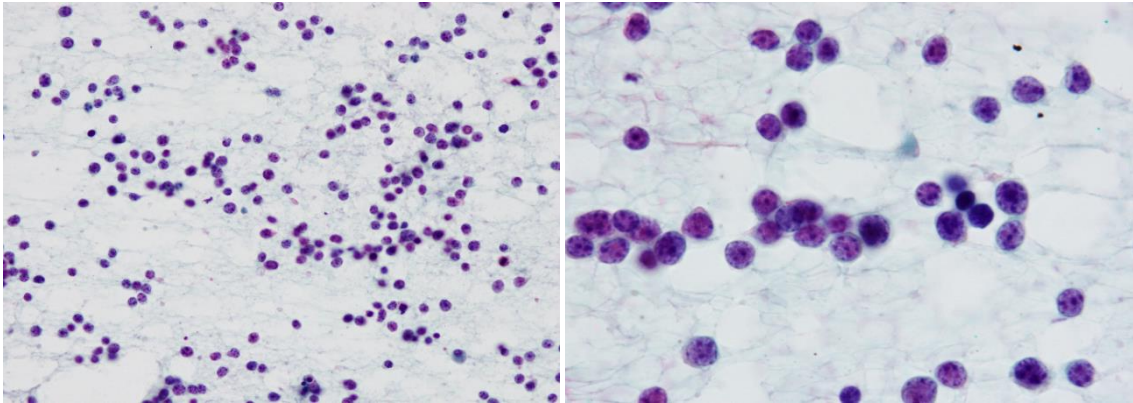




EBUS-FNA 材料で悪性リンパ腫と鑑別が困難であった小細胞癌
—呼吸器材料で出現する小型類円形細胞の鑑別を中心として—

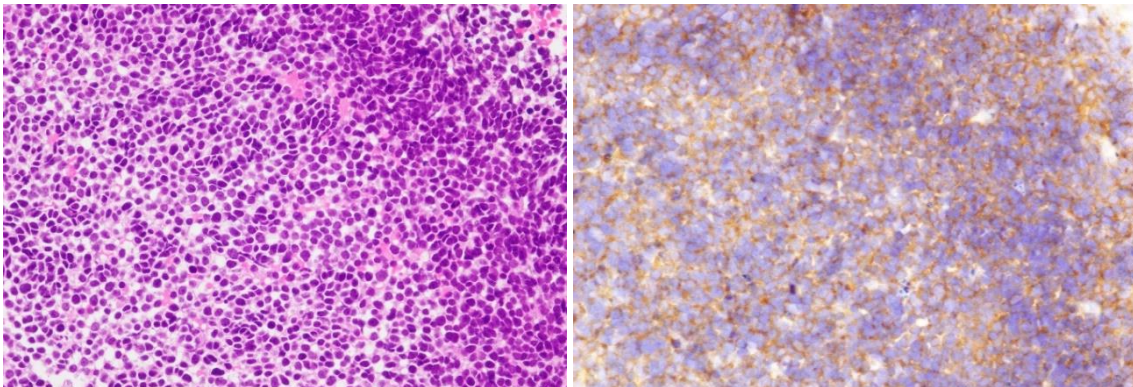
【症例】70歳代女性。全身倦怠感にて外来受診。胸部 X-P にて大動脈弓の拡大あり。CT にて肺門部から縦隔にかけて 1.8cm 大の腫瘤を認めた。臨床的には、肺癌または悪性リンパ腫を疑い、精査目的に EBUS-TBNA が施行された。

【細胞像】比較的清明な背景に、N/C 比の高い類円形の異型細胞が単調な増殖を伴い散在性に出現、クロマチンは粗顆粒状の増量がみられた。一部やや疎な結合性や鑄型状配列を認められた。診断時は悪性リンパ腫疑いと診断した。



EBUS-FNA 細胞像写真：左 pap×40 右 pap×100

【組織像】小型異型細胞の増殖を認めた。N/C は極めて高く、裸核様類円形核、核異型に乏しく周囲に核の挫滅像認める組織像であった。免疫組織学的に CD3(-)、CD20(-)、Synaptophysin(+)、ChromograninA(±) の結果より小細胞癌と診断された。



EBUS-TBNA 組織像写真：左 HE×40 右 Synaptophysin×40

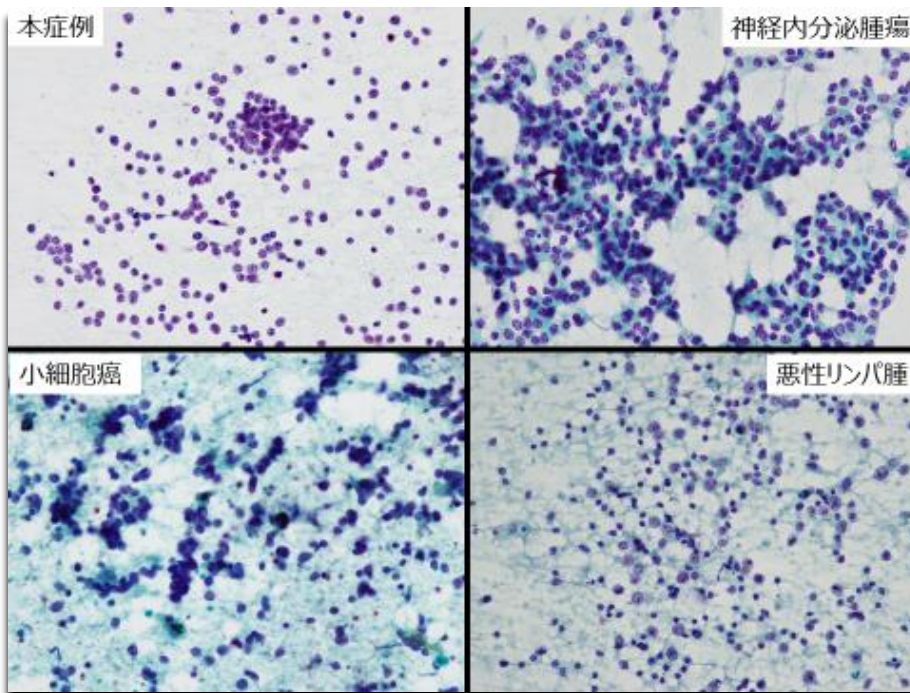
【考察】EBUS-FNA 材料にて細胞診にてリンパ腫を疑ったが、組織診断にて小細胞癌であった。再鏡検では、鑄型状配列や核クロマチンの細～粗顆粒状パターン、核小体の不明瞭を



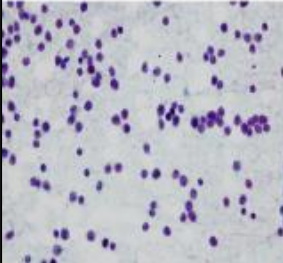
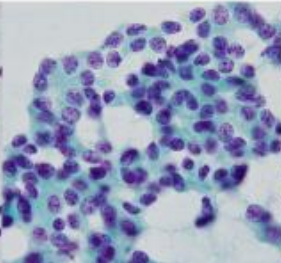
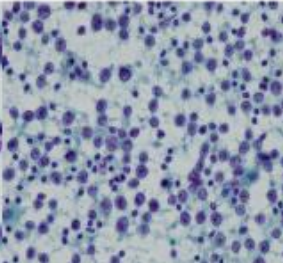
みることで、鑑別はできると考えられた。呼吸器材料で鑑別が必要な N/C 比の高い小型類円形腫瘍としては、小細胞癌、悪性リンパ腫、神経内分泌腫瘍があげられる。小細胞癌は壊死性背景や鑄型状配列、悪性リンパ腫は単調な腫瘍細胞の出現、明瞭な核小体、神経内分泌腫瘍は細胞質を有する腫瘍細胞で出現し、salt and pepper 状のクロマチンを有することが特徴で、これらの所見でそれぞれを鑑別することができる。

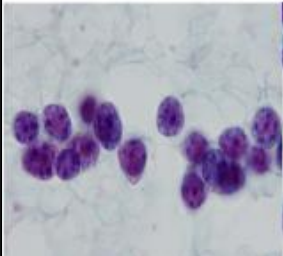
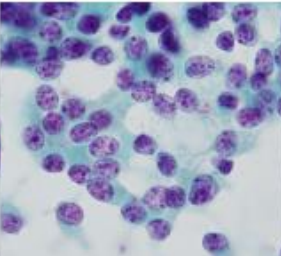
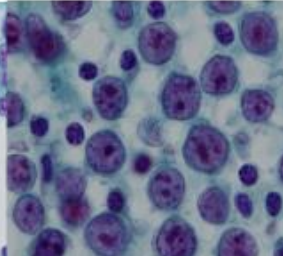
表：呼吸器材料における小型類円形腫瘍の細胞学的鑑別

	小細胞癌	悪性リンパ腫	神経内分泌腫瘍
背景	壊死性背景	きれい	きれい
出現形態	結合が疎な不規則配列 鑄型状配列	散在性 単一な増殖	結合が疎で平面的 散在性
細胞質	極めて乏しいLight Green 好染性裸核様	極めて乏しい Light Green好染性裸核 様	Light Green好染性 レース状、境界不明 瞭
核	類円形～不整形 大小不同が著しい	類円形～軽度不整 くびれや切れ込み 小型明瞭核小体	円形小型、均一 核偏在性
クロマチン	微細、細顆粒状に増量	粗顆粒状	顆粒状と粗顆粒状の 混在 (salt and pepper)





本症例 小細胞癌	神経内分泌腫瘍	悪性リンパ腫
結合の緩い不規則配列 鑄型状配列	平面的 結合緩い ロゼット様配列	散在性 単調な増殖
		

本症例 小細胞癌	神経内分泌腫瘍	悪性リンパ腫
N/C極めて高い 類円形～不整形 微細、細顆粒状に増量	偏在性 (+) 円形小型、均一 salt and pepper	N/C極めて高い 類円形～不整形 小型明瞭核小体 (+) 粗顆粒状の増量
		

写真：出現形態 写真：核所見

【まとめ】呼吸器材料で出現する小型類円形腫瘍の細胞学的鑑別には、出現形態やクロマチンパターン、核小体などの核所見が重要であり、詳細な観察が必要である。

桑名市総合医療センター
今野和治



【最近の話題 ～がん関連線維芽細胞と細胞診～】

がん関連線維芽細胞(Cancer associated fibroblast: CAFs)はがん内に存在する線維芽細胞として定義され、がん細胞の増殖、浸潤・転移を促進させることが知られています。最近、細胞診の学術誌 *Cytopathology* にがん関連線維芽細胞の細胞所見と細胞診断への有用性が報告されました(Saika T, et al. *Cytopathology*. 2020;31:310-314)。CAFs の存在は実験的に証明されてきましたが、細胞診断に応用された報告は少ないと思います。癌細胞以外の細胞にも注目する重要性を改めて感じた内容でした。ご興味のある方は是非、一読してみてください。

鈴鹿医療科学大学 金山和樹